

|      |     |         |      |       |         |          |       |    |
|------|-----|---------|------|-------|---------|----------|-------|----|
| 科目名  |     | 言語療法技術Ⅱ |      |       | 授業の種類   | 演習       | 講師名   |    |
| 授業回数 | 15回 | 時間数     | 30時間 | (1単位) | 配当学年・時期 | 言語聴覚士科4年 | 必修・選択 | 必修 |

〔授業の目的・ねらい〕

言語学的音声学の理論の概要を理解するとともに、他の音声学との関係を知る。

〔授業全体の内容の概要〕

言語学的音声学で用いられる音声記述や言語音の生成の仕組みについて学ぶ。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

国家対策につながるような実践的知識の集積

| 回数 | 講義内容                 |
|----|----------------------|
| 1  | 講義概要の説明              |
| 2  | 音声の超文節的特徴（1）概説       |
| 3  | 音声の超文節的特徴（2）抑揚・強勢    |
| 4  | 音声の超文節的特徴（3）アクセントと方言 |
| 5  | 音声の超文節的特徴（4）テンポ他     |
| 6  | 異常音声の表記方法とその限界（1）    |
| 7  | 異常音声の表記方法とその限界（2）    |
| 8  | 音声生成の仕組み（1）発声と共鳴     |
| 9  | 音声生成の仕組み（2）口腔調音      |
| 10 | 音声と口腔診査法（1）          |
| 11 | 音声と口腔診査法（2）          |
| 12 | 音声と口腔診査法（3）          |
| 13 | 口腔内の異常と音声（1）         |
| 14 | 口腔内の異常と音声（2）         |
| 15 | まとめ                  |

【 準備学習・時間外学習 】

|  |
|--|
|  |
|--|

【 使用テキスト 】

|               |        |           |
|---------------|--------|-----------|
| 書籍名           | 著者名    | 出版社       |
| 言語聴覚士テキスト 第3版 | 大森孝一ほか | 医歯薬出版株式会社 |
|               |        |           |

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。